

留学先国名 : カナダ
留学先学校名 : Mount Allison University
留学期間 : 平成 25 年 4 月 ~ 平成 29 年 4 月

「卒業を迎えて」

2017 年 4 月 21 日、五月のマウント・アリソン大学の卒業式の前に、モンクトン航空学校の卒業式が行われました。その席上で 2017 年度、優秀生徒(一名のみ)の表彰式がありました。200 余名の生徒の中から推薦を受け審査を経て、私の名前が発表され賞を受ける事が出来ました。これは私にとって自慢でなく貴重な思い出と将来の励ましとなりました。

卒業前の訓練はこれまで操縦してきた単発機から多発機(パイパーセミノール機)に進み、機体重量はこれまでの 2 倍、馬力は三倍となりました。訓練内容も計器飛行にレベルアップし、操縦桿の形状も輪桿に代わりました。計器飛行は空港の無線航法装置から出る電波をキャッチして着陸を行う為、夜間や悪天候、空港の見えない雲の上からも正確で確実な着陸が可能となります。これらの訓練を経て 4 月 15 日カナダの国家試験の計器飛行免許を取得する事が出来ました。卒業後も引き続き飛行時間とパイロットの各種の資格を獲得する為、飛行訓練は続けていきますので、帰国は当分先になります。

さて、この四年間日本では考えられなかった、極寒のカナダの大学生生活、難解な授業と取り組んだ日々、単位取得のテストで苦しんだ日々、また学友と過ごした楽しかった思い出など様々なことがありました。2017 年 5 月 15 日、晴れやかな気持ちでマウント・アリソン大学の卒業式にのぞむ事が出来ます。報告も今回で最終回となりますが、これまでの私の体験がこれから留学される学生の皆さんの参考になり、また少しでも、お役に立つことがあれば、とても嬉しく思います。

「希望と現実」

四年前、留学という言葉から、海外で学習し親元から離れ独り立ちをする。これまでとは全く違う環境での生活が待っている。その国の言語や文化に直接触れる事で自分の人生観や世界観が大きく広がるなど未知の世界に対して大いに夢と希望を抱いていました。

関西学院千里国際高等部を卒業し大学の案内状を確認しながら、英語圏カナダへの留学を目前にした時、現実としてこれから学習しなければならない膨大な教科そしてカナダ東部の極寒の気候や、先に紹介しましたように、モンクトン近郊のサックビルという大自然が多く残る田舎での長期間に及ぶ単調な生活を考えた時、少し気が重く憂鬱な気持ちにもなりました。

またカルチャーショックもありました。九月から始まる大学入学条件の英語資格取得の為、卒業直後の 4 月からバンクーバーの語学学校へ通う事にしました。ホームステイをしたファミリーは働く御両親とお婆さんと子供 3 人の六人家族でした。日本のお土産も持参し夕食時は食卓で、その日の出来事などを会話しようと思いき楽しみにしていましたが、ここの家庭の都合もあり、食事は私一人でテーブルの上に置かれた一品のおかずをレンジで温め寂しく食事を済ませる日々でした。自分の思っているようには成らないのが現実だと思いました。

「環境と自己を克服」

これまでの日本での生活習慣から、カナダの大学の授業と寮生活に慣れるのに一年掛かりました。大学から遠く離れた航空学部への通学と訓練及びシェアハウスの生活環境に慣れるには二年を要しました。

日本の大学と海外の大学との違いについて、一概には言えませんが、友達との会話の中で概ね日本の大学は狭き門で入学するには困難を極めますが合格すれば卒論を書いて特に問題が無ければどうにか卒業出来るようです（いわば「入り難く出やすい」）。欧米の大学では広き門で入り易く入学時には大勢の学生で賑わいます。しかし一学期ごとの単位を取得しなければ次へ進む事が出来ません。日本人の私にとって英語圏での学生に課せられる単位を着実に取って行く事は本当に辛く苦しい日々でした。

私の大学では一年ごとに10科目を学習して30単位を取り卒業する為には40科目120単位を取得しなければなりません。したがって現地の学生や留学生もいつしか一人減り二人減りしていきます（「入り易く出難い」）。留学生の中には帰国して次の年に再びチャレンジする人もいますが、残念ながら止めてしまう人も出てきます。

このマウント・アリソン大学に入学してから、私たちアジア地域の留学生にとって現地の学生との交流にはやや壁がある事を感じました。どうしても会話のレベルや話の内容に違いがある事、また会話中お互いに理解しにくい言葉や文化の違い、それらの説明にも時間がかかる事など自然に現地のグループとアジア系の友人のグループとに分かれてしまう傾向にあります。しかしそれでは留学の意義にもそぐわないと思います。私の場合、意識をして同じ学科の講義を受ける時、現地の学生と友人に成る絶好のチャンスなので相手に飛び込んで行きます。例えば大学の数学レベルは高く(カナダの中高生の学習内容から見ても)現地の学生にとっては苦手なようです。東洋人の方が中学高校で積み上げたレベルが高いように思います。なので、テスト前には友人が解らないところを全力で応援します。逆に私たち東洋人には、どうしても英文での作文やレポートなどは時間がかかり苦手の分野ですので、ここは現地の友人が力を発揮してアドバイスしてくれます。友人になれば絆も深まります。これは一つのポイントです。

「決して諦めない」

次に、私の所属する航空学部のグループメンバーは10人でしたが、内9人は現地のカナダ人で東洋人は私一人でした。学部で目指すものは勿論パイロットの資格ですが、それを得る為には厳しい訓練と膨大な資料に目を通し難解な航空学を徹底的に学習しなければなりません。当初の私は英語のスピードも遅く他のメンバーはドンドン進んで行くのに、私だけが置き去りにされた状態でした。私は夏休みに皆が休んでいる期間をフル活用し、地道ですが何度も繰り返しコツコツと勉強しました。そしてようやくPPL（プライベートパイロット免許）を取得出来ました。その資格を示す一本線のワッペン(肩章・正式名称はエポレット)を付けることが出来ます。ここから次の段階の肩章二本線CPL(事業用操縦士免許)に進むには、更に難関を乗り越えなければなりません。これも地道に繰り返

返し学習していきました。やがて、その成果が見え始めたのは3年生の終了時点でした。何人かのエポレットから私一人が二本線となりグループのトップに立つ事が出来ました。本当に苦しい時自分に言い聞かせました。楽な時は坂道を下り苦しい時は坂道を登っているんだと、この体験を通して思う事は希望を持って頑張る事、大切な事は決して諦めない事と確信しました。

「感謝と再出発」

卒業にあたり、長いようで短かった四年間、今日まで私を支えてくれた両親や祖母をはじめ教師の方々や先輩・同級生・後輩に対しても感謝の気持ちが込み上げてきました。ここから再び次へ向けて出発です。私の好きな諺に「千里の道も一歩から」という言葉があります。私の千里の道は大学を卒業して更に人生そのものだと思っています。ゴールは大型航空機の機長です。必ず千里の道を踏破するという決心を込め、一歩また一歩と進んで参ります。

最後にこれまで私を見守ってくださった大阪府国際化戦略実行委員会の皆様に心から感謝致します。本当にありがとうございました。